

1 利神城跡保存活用計画策定委員会 会議議事録（概要版）

2 （平成30年度 第4回）

日 時	平成31（2019）年2月9日（土） 13：10～16：50
場 所	姫路市市民会館 4階 第10会議室
出席者	<p><委員>※敬称略 任期：平成30年2月27日～平成32年3月31日</p> <p>藪 田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長 【委員長】</p> <p>北 垣 聰 一 郎 石川県金沢城調査研究所 名誉所長 【副委員長】</p> <p>西 形 達 明 協同組合関西地盤環境研究センター 顧問</p> <p>福 井 亘 京都府立大学大学院 准教授</p> <p>水 島 あ か ね 国立明石工業高等専門学校 准教授</p> <p>※委員長は14：30～出席（北垣副委員長が代理進行）</p> <p>※水島委員は16：00頃退席</p> <p><助言・指導></p> <p>山 下 信 一 郎 文化庁記念物課文化財調査官 (欠席)</p> <p>小 川 弦 太 兵庫県教育委員会文化財課主査</p> <p>山 上 雅 弘 兵庫県立考古博物館学芸課担当課長補佐</p> <p><事務局></p> <p>谷 口 俊 廣 教育課 課長</p> <p>宇 多 雅 弘 教育課企画総務室 室長</p> <p>藤 木 透 教育課企画総務室文化財係 副室長</p> <p>中 村 剛 彰 教育課企画総務室文化財係 室長補佐</p> <p><コンサルタント></p> <p>奥 村 信 一 (株)都市景観設計 代表</p> <p>中 野 浩 幸 (株)都市景観設計 取締役</p> <p>坂 田 奈 美 子 (株)都市景観設計</p>
議事等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 利神城跡等に関する情勢報告 3. あいさつ（北垣副委員長） 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第3回委員会議事録の確認 (2) 報告書案（第5、6、7章修正案及び9章）の確認 (3) 将来計画の概要版について (4) 石垣カルテの作成状況報告 5. 閉会

1 **—議事内容—**

2 **1. 利神城跡等に関する情勢報告**

3 <事務局>

4 文化庁に一度現地を見てもらうという提案があったため、文化庁資源活用課の中井文
5 化調査官が12月21日に現地視察に来られた。当日は北垣先生、西形先生、県文化財課
6 の小川さんにもご出席いただき、今後の保存対策と活用についての考え方や手法などに
7 ついてもいろいろとご教示をいただいた。

8 文化庁調査官によれば、利神城の現状について、これほど山上の石垣と麓の居館部分
9 の石垣が残っているのは全国的にも貴重である。保存対策については、応急策として石
10 垣に金網ネットを張ることと、地盤安定化が急がれる。また、国の指定物件は公開義務
11 があるので、いつまでも現状のような保存重視にはできない。可能なところから部分的
12 に公開していく必要があるとの意見をいただいている。

13 「佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクト」の進捗状況について。現在、モデ
14 ル事業の1つ、平福の通称・木村邸の活用策について、地元と地元外の方にも参画いた
15 だいてワークショップを昨年から継続して取り組んでいる。まずは通称・木村邸の活用
16 について今後取り組んでいきたい。

17 ●本格的なことをやるよりも、まず応急的、仮設的な手法で、とりあえず少しずつでも
18 劣化進行の速度をとめるのがいいと考えた。特に二の丸の下の自然斜面に接している
19 ところは、立派な石垣がまだ十分残っているが、非常に状況がよくない。仮設的なネット
20 敷設を少しずつやっていけるのではないかと考えた。それから、斜面そのものも少し手当をする
21 必要がある。石垣にネットをかけて崩落を防ぎ、斜面そのものも風化して徐々にやせて
22 いく状況が見られたので、できるだけ安価な法面保護工を少し施して、まずは二の丸の
23 石垣をやっていったらどうかと考えた。もう一度詳しく踏査した上で検討していく必要
24 がある。

25
26 **2. 議事**

27 **(1) 第3回委員会議事録の確認**

28 (配付資料確認)

29 (第3回議事録の説明)

30
31 **(2) 報告書案(第5・6・7章修正案及び9章)の確認**

32 (第5章～第9章の説明)

33 ●六支城とか大阪・岡山との交通がいいとか因幡街道とか、もう少し広域的な話が出て
34 きているので、ど真ん中の今回の範囲と平福の町並みを含めての周辺と、もう1つ広域
35 的な話をここに含めておいたらいいのではないかとと思う。

36 ●歴史的な利神城の変遷を考えた時に、戦国末期の段階、特に上月城、上月合戦とのか
37 かわりが1つ出てくると、その次に文禄段階はほぼ宇喜多の領地で間違いないと思う
38 が、この段階があって、3番目に姫路城の六支城の段階が出てくる。さらに寛永になっ

1 て宿場町になっていくという4つぐらいの顔を持っていると思う。

2 城としてのネットワークを考えると、例えば「雲突の城」。石垣のある天空の城、例

3 えば竹田城とか、そういうところとのネットワークの組み方も戦略としてはある。それ

4 から、池田氏が播磨を藩領とした段階では確かに六支城だが、その後、淡路とか備前、

5 因幡のほうも藩領になっていくので、そのあたりとの連携。

6 ●こちらはいろいろな団体が努力している。継続的に地域で頑張っている方々があつて

7 初めて、そういったソフトが生きてくるのではないかと思う。もう少しそこも丁寧に示

8 していただくのがいいのではないかと思う。

9 ●課題で、近隣の中学校とか高校と連携をするなど、学校との連携を入れていただく。

10 ●「教育機関との連携」という程度にする。

11 ●草刈りにどんな関心を持っていかれるのか。その関心の持たせ方、持っていき方はど

12 ういうふうに考えているのか。

13 ●基本ボランティアは、お金目当てではなくて達成感とか地域貢献。そういうのを子ど

14 もたちが自主的にできるような形がとればいいが、安全対策はしっかりしなければい

15 けない。それはなかなか難しい部分はあると思う。

16 利神城を中心とした周辺のボランティアもできているというような仕組みづくりを、

17 最初に種を植えるような形でこの委員会で入れておけば、徐々に広がっていく。

18 ボランティアに対して、一日保険などはしっかりとつけて、何かの時の対処はしなければ

19 ならない。それと幾ばくかの報酬が伴ってもいいと思う。

20 ●クラウドファンディングで集めるようなノリで、草刈りスタッフ募集みたいな感じで

21 来てもらったら、草刈りはしないといけないが、貴重な利神城の上に登れる。保険はこ

22 ちらで支払うが、参加費を取ってもいいかもしれない。

23 ●利神城を核でもいいし、ネットワークを組んで、みんなでクラウドファンディングを

24 募集してもいいと思う。兵庫県には石垣で有名なお城がたくさんあるので、そういうと

25 ころとぜひ連携してほしい。

26 ●今は非常に危険なので、なかなかオープンにできない。でも、草刈りをやるというこ

27 とで限定的に入るのも部分公開なので、その間に修繕をして正式にオープンしていくと

28 いう形がいいと思う。

29 そうすると地元の人も参加しようということで増えていくといいし、もちろん山城フ

30 ァンも来てもらいたい。

31 ●競争というか、ネットワークで、今回はこっち、次は上月城、白旗城もあると思う。

32 【6章について】

33 ●山上地区の石垣の手当は急を要する。また、公開ということ考えると徐々に周りか

34 ら固めて中心へ進んでいくことになる。二の丸地区、三の丸地区の整備をまずできるだ

35 け早い時期に終わることが重要と思う。

36 ●具体的には、石垣についてはネットを被せるのがまず経済的。10年、20年ぐらいは

37 それでいけるだろう。それから石垣の基礎部の安定化。できれば二の丸あたりまでをま

38 ず整備して、そこまでの公開をやるという方向性をつけるのがいいのではないか。

1 ●「課題」も優先順位があると思うし、どういう調査をどういうふうにしていくか、今
2 の話にかかわって議論がかなり必要。

3 ●石垣の集中的に先に直すところも出てくると思う。一気に全部は無理だし、部分公開
4 もしないといけない。草刈りも1つだが、将来的には一般の方が来られる形をとらない
5 といけないので、登山道もしくは登城道どちらかを中心に整備をする。それにあわせて
6 先に石垣を直さないといけない。

7 ●早く公有地化する対策を講じていく必要がある。あれもこれもを並行しながら、その
8 中で1つ前に行くという問題が利神城の場合は非常にある。

9 (休憩)

10 ●町の行方と切り離して利神城の議論だけをできないと私は理解しているが、以前、
11 ビジョンをつくった時に、過疎化あるいは高齢化という問題に町としてどう取り組んで
12 いくのか、その中でこの史跡の指定があったらと思う。運営体制の中にはもっと町
13 のビジョンとのかかわりがあってもいいのではないかな。もう少し町の意見を聞かせてい
14 ただいたほうがいいと思う。その点、どうか。

15 <事務局>

16 ●「佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクト」が、今回の利神城の国史跡指定を
17 きっかけに町の取り組み姿勢である。当然、一点突破・全面展開で、利神城の保存と活
18 用が一番大きなこれからの課題ではあるが、先ほど山上さんから、実は上月城、それか
19 ら三日月の乃井野陣屋もかかわりがあるという非常にいい話をいただいた。我々はそう
20 いうことも踏まえて利神城を考えているが、何はさておき、核となるものはこれである
21 という考えである。

22 【7章について】

23 ●今、文化庁のほうで、文化財保護法改正に関して地域計画を策定しなさいという動き
24 が出ている。佐用町としては、そういう地域計画をつくる方向で今動いているのか。

25 <事務局>

26 文化財保護法の改正でいわゆる保存から活用はかなりシフトされたという状況の中
27 で、うちが打ち出したのが先ほどの「未来伝承プロジェクト」である。

28 ●6章までの議論と7章以降は少しレベルが変わってもいいと思う。もう1つは、この
29 史跡は放っておいたら潰れる。残っている価値が高い分、消滅する危険性が高いので、
30 活用する前にまず今の状態をどう保持していくかということが問われている。そこにも
31 アクセントを強くしなければいけない。

32 ●利神城にはいろいろな顔がある。この「六支城」という言葉をタイトルに掲げて連携
33 を組んでいこうとすると、どうしても制約が大きい。今日言ったのは、1つは「石垣の
34 お城」としての連携の組み方。もう1つは、池田家の姫路城を本城とする城郭群として
35 の連携の組み方。いろいろなお城の組みが利神城の歴史に合わせてあるので、もう少し
36 練ったほうがいい。それから、佐用町がどういう戦略でお城の連携を組みたいかとい
37 うことにもかかわってくると思う。「雲突城」を強調するのだったら、「石垣の城」「天空
38 の城」というタイトルでいったほうがいいと思う。

- 1 ●ぱっとイメージできそうな「〇〇の利神城」みたいなものをここで掲げて、副題的に
2 「〇〇を生かす」みたいに入ると、みんなが共有できる将来の夢としていける。例えば
3 「石垣を後世に残す」でもいいし、さっき話があった4つぐらいの顔を持っているとい
4 うところを挙げて、その中で石垣や幾つかの歴史を持っていることがわかるようにする
5 と、その特徴が2行ぐらいで示されると思う。
6 キャッチフレーズ的なものが欲しい。
- 7 ●キーワードは、「歴史の継承」と「石垣の継承」で、そこにハードの整備、3つ目が
8 「地域と宿場町」だと思う。
- 9 ●「国境の城」というイメージは、地理的にはすごくわかりやすい。
- 10 ●さっきの話では、それを比較するために大阪や岡山を入れるという話になった。今の
11 話もまさしくそれで、この辺を光らせる必要があるかもしれない。
- 12 ●壊れているのが非常に魅力的。この城の魅力は、特に天守周りのところが石が流れた
13 ままになっていることだと思う。工学的にも、城、石積みはこうやって壊れるんだとい
14 う非常にいい標本でもある。
- 15 ●でき上がったものが新旧の時期差があるという例はあまりない。
- 16 ●お城の歴史がわかる。何かキャッチフレーズはないか。
- 17 ●私は景観的に見て変化していいと思っている。落城した後の風景が見られるのはおも
18 しろい。それを400年以上、地元の人が大事にしながら見てきたという時間軸が非常に
19 よく残っている城だと思う。今日明日できたのではなくて、何百年かの時間軸の上で今
20 があるお城だと思う。そこを大事にしたいが、危ないので何とかしないといけないとい
21 うのも重々わかっていて、苦慮するところだ。景観としては、今の状態のほうが美しい。
- 22 ●新旧の石垣というのはもちろんそうだが、4つの顔を持っている。これまで時代に
23 応じて少しずつ手をかえ、いろいろな形で城が生き続けてきた。その時間の流れが全部積
24 み重なっている。その歴史の積み重ねがすごく魅力で、それをいい意味でとめないこと
25 がこの整備の大きいところだと思う。
- 26 ●活用をどうするかという時に国史跡になっているので、利神城の整備の仕方はター
27 ニングポイントみたいなどころにある。昔だときちんと石垣を戻して残すが、遺跡整備の
28 何十年の経験が利神城に来ている。立入禁止の話もそうだが、草刈りとして入れるとい
29 う特別感は、多分10年、20年前の整備にはなかったのではないか。
- 30 ●石垣の持っている本質的価値を考える時に、どのようにそうなっていったかを考える
31 と、崩れて残されているものはそれなりの意味がある。それを元に戻してしまうと、そ
32 この価値を損なってしまうと常に感じている。どこまで戻したら今後地域のためになる
33 のかという問題は、いつもある。
- 34 ●あとは、現代に合ったいろいろなやり方をどんどん入れていく。「いろいろなかわ
35 り方で維持管理に入っていけるような体制づくりを進めていく」という文言ぐらいにし
36 て、検討も含めての大綱でいいと思う。「佐用町らしい」とか「平福らしい」維持管理
37 を続けていく。
- 38 ●担い手の問題だと思うが、城郭跡愛好者、ファンのようなものを保存・活用の中に想

1 定するという事は書いてもいいのではないかと思う。

2 ●地元の人だけで頑張れというのはしんどいところもある。

3 ●明日香のような柵田オーナー制度の例もある。石垣オーナー制度のようなものも考え

4 られる。オルソ写真もできているので、番号をつけて、何番があなたのものですと。

5 仕組みだけ整えたら、ファンディングを市町村ができるぐらいなのでやってもいい。

6 ●恐らく保存管理や整備はかなり技術的な問題もあり、専門的なことをしなければなら

7 ないが、運営体制はかなり突拍子もないことがあってもいいだろうと思う。もう少し全

8 国初の運営体制みたいなものが考えられる。

9 ●全ての教材は地域のものを使うということを教育委員会として言ってしまえば、算数

10 でも足し算はお城の石だったり、重力だったら利神城のあれはとか。

11 ●副教材で佐用の歴史を学ぶ。それを英語にかえてしまうとか。＜藪田＞

12 ●姫路は特に、姫路城中心の副読本みたいなものをつくっている。

13

14 **【石垣カルテの作成状況について】**（石垣カルテについての説明）

15 ●基本的な石垣の状態を継続的に調査していくという意味で、これは最低限必要だろう

16 と思う。今の状態を維持するという整備の流れを考えたほうがいい。直すという話では

17 ない流れがあるのではないか。文化庁の『石垣整備のてびき』に反することかもわから

18 ないが、そういうのをつくるのがおもしろい。劣化を進行させない最小限の手当として

19 の対策。危険というのは第三者が危険だという意味で、たとえ崩れそうでも、人が通ら

20 なければ安全だという観念も入れて、そういう考えを表に出すことで石垣整備の流れみ

21 たいなものをつくれなにかということも感じた。

22 ●一方ではモニタリングはきっちりやる。管理のこういう調査票もきっちりつくる。そ

23 ういう方針でできないか。ここの城特有の整備方針ができるのではないかという気がし

24 た。

25 ●昔、和歌山城で初めて「石垣カルテ」という言い方をした。人間が一生のうちに何ら

26 か調子が悪い状態になると、その管理は自分の町の医者がやってくれる。医者がその

27 患者については精通している。人間を石垣にかえて見ていけば、多様なものが石垣には

28 あるはずで、これはつまりは医者問診票である。そこからいろいろな原因、経緯をつ

29 かんていく。これをずっと継続していかなければいけない。

30 ●調査票はしっかりつくるのが大事だと思う。基本的には現状維持が望ましいと思っ

31 ている。

32 ●公開は第三者被害が及ばないということが第一前提で、少し危ない石から離して通路

33 をつくれるのなら公開できるとか、そういう考え方でやればいいのではないか。

34 ●石垣カルテの位置づけとか考え方の話をしていただいたので、第8章と第9章に大き

35 くかかわってくると思う。石垣はかなり大きなパートを占めそうな感じがする。以上で

36 今日は終わりにしたい。

37 (終了)

38